

チェック!

消毒を効果的に活用して バイオセキュリティを徹底

今回のテーマは
食卓までつながる
農場での防疫管理
についてです。



農場での防疫管理の徹底は生産性の向上にとどまらず、食中毒の原因となる畜産物汚染の軽減、すなわち「食の安全・安心」にもつながる重要な事柄です。今回は農場の防疫管理について確認しましょう。

●病原体の進入を防ぐ

防疫管理（最近ではバイオセキュリティともいわれます）の第1は、農場に病原体を侵入させないことです。農場に病原体を持ち込む原因とその対策例は、以下のとおりです。

導入家畜：一定の期間隔離して飼育し、健康であることを確認する。

人間：畜舎専用（できれば畜舎ごと）の作業着や長靴を使用する。入場前のシャワーや入浴により体を清潔にする。

器材・車両：入場前に洗浄や消毒をする。

飲水：上水道以外の水源から供給するときは消毒する。

野鳥・野良犬：防鳥ネットやフェンスを設置する。

●病原体を拡散させないために

防疫管理の第2は、農場内で病原体を拡散させないことです。このためには以下のように場内のエリアや作業動線をきちんと区別します。

管理（事務所や機材庫）・飼育エリアの区分け：外来者の立ち入りは極力事務所までとする。

幼畜舎と成畜舎の区分け：病気に感染しやすい幼畜から作業する。幼畜専任の担当者を配置する。幼畜舎専用の長靴や作業着を使用する。

家畜管理の経路と糞尿・死亡家畜の処理経路を分離：人や車両の行き来が交差しないように工夫する。

●作業手順のマニュアル化を図る

防疫管理の第3は、以上の病原体の侵入と拡散の防止を徹底することです。このためには作業手順をマニュアル化したり、マニュアルに基づいた作業の記録づけを習慣化します。また、防疫管理がいかに大事なことであるかを常に意識することも重要です。

●確実に現れる消毒の効果

効果的な防疫管理に消毒は欠かせません。消毒には熱や日光を利用する方法と、消毒薬を用いる方法があります。消毒の効果は目に見えにくく実感しづらいですが、きちんと消毒すれば確実な効果があります。写真1と2は手を薬用せっけんで比較的ていねいに洗い、その前後で手についている菌を調べた結果です。明らかに菌数が減っていることがわかります。写真3と4は汚れた車両とそこに付着している菌、写真5と6は同じ日に農場入り口の消毒装置をゆっくりと通過した後の同じ車両の表面と、そこに付着している菌を調べた結果です。汚れとともに菌も減っていることがわかります。消毒を上手に活用して、病原体が侵入・拡散しないよう農場の防疫管理を徹底しましょう。



写真1. 手指の洗浄前



写真2. 手指の洗浄後



写真3. 車両洗浄前



写真4. 車両洗浄前のふき取り検査



写真5. 車両洗浄後

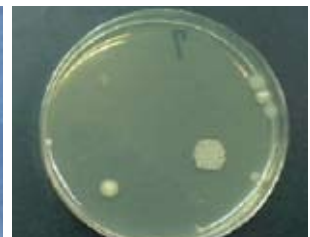


写真6. 車両洗浄後のふき取り検査